

園名 大淀町立大淀東部幼稚園

はばたくなら⑤

豊かな体験を通して、主体的に活動する幼児を目指して
～身近な自然や地域とのかかわりの中で～

5歳児

取組について

○本園は、長年地域の方との繋がりが深く、地域の方や地域の小学校から惜しみない協力を得ながら様々な活動を行っている。地域の豊かな自然の中で地域の方、小学校と関わりながら、主体的に活動できる子どもを育てるために取り組んできた。

○少人数保育であるため、地域の方との関わりは、他者と関わる大切な機会であると考えている。活動は、計画を基に園と地域の方と話し合い、子どもの生活する姿に即して子ども主体の活動になるようにしている。子どもが試行錯誤しながら「何ができるかな？どうしたらできるのかな？やってみたい！やってみよう！」という思いを大切に、意欲的に活動に取り組んでいけるようにしていきたい。

○小学校とは、交流の目的を明確にして共通理解をしながら活動を行っている。極めて少人数の園ということで、毎週水曜日は地域の小学校で終日保育を行い、人と関わる体験をさせる。

保育者の願い

- ・少人数の中でも身近な人と親しみ、関わりを深め工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもってほしい。
- ・地域の中でいろいろな体験をすることで地域を知り、地域に愛情をもってほしい。
- ・園だけではできない豊かな体験を通して主体的に活動する子どもを育みたい。

地域の方の思い

- ・幼稚園の子どもは地域の子として大切に思っている。
- ・自分達が協力できることなら何でもしたい。
- ・幼稚園に協力することが生きがいの一つになっている。

幼稚園と地域の方との話し合い ☆ 子どもの思い

- ・年度初めに年間計画を基に毎年行っている活動の計画について話し合う。
- ・子どもの内面の動きや興味に応じて、計画の見直しを行い、ねらいや内容を伝え、子どもの発達に必要な経験について話し合いをする。

保育者の願い

☆うさぎにあげる人参を育てたい。

☆楽器を作りたい！
一緒に考えてくれるかな？

事例2

☆お茶の色水で紙が染まった。違う物も染まるかな？

子どもは「なぜだろう？」と疑問に思ったことを色々な方法で何度も繰り返し、予想したことがうまくいかなかったときには、保育者や地域の方と一緒に考えようすれば成功するのか挑戦してほしい。

☆いろいろな野菜を作りたい。

☆お茶の葉を摘んでみたい。

☆ドッジボールって楽しいな。でも、うまくボールを投げられない。教えてほしいな。

☆うまくいかない…聞いて見よう！！

保育者 : 子どもの遊びが色水から染物に展開したため事例2のねらいを伝え計画した。
 地域の方① : 「茶畑に茶葉を摘みにおいで。一緒にチャレンジしてみよう」
 地域の方② : 「茶染めの本を何冊か持っているから見ながら一緒にやってみよう」
 子ども : なかなかうまく染まらない「②さんに聞いてみよう」「もっとしたい①さんにまた茶葉をもらおう」
 子ども : 「うまく染まった！地域の方に見てもらおう！誰かに教えてあげたいな・・・」
 地域の方 : 「うまく染まったね」、「みんなで考えたり工夫したりしたんやね」と、認める。
 小学校 : 子どもが「茶染めを小学生に教えてみたい」という思いをもっていると伝えると、小学校は「地域を知る」というねらいをもち一緒に取り組むことになった。
 地域の方 : 「幼稚園と小学校のねらいと思いはよく分かった。体験交流ができるように茶葉を準備して当日参加させてもらおう。茶葉のことや茶の歴史をわかりやすく説明しよう」

※「ねらい」を共通理解して活動をした。活動後は幼稚園、地域の方、小学校で園児、児童の反応や活動の反省を伝え合い、次の活動に繋げている。

子どもが、遊びの中で周囲の環境と関わり、周囲の世界に好奇心を抱き、自分なりに考えることができるようになる過程を大切にできた。また、他の子どもの考えなどに触れて新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自分の考えをよりよいものにしようとする気持ちが育ってきている。

実践事例 1 「お茶揉み(茶作り)」 時期: R2.5月～R2.11月

地域の方と話し合いを重ね、地元の特産物であるお茶を知ろうという思いからお茶揉み体験が始まった。毎年欠かさず、この取組を続けている。

①お茶揉み



ねらい ・身近な自然に接し、季節によってお茶の木の变化に興味をもつ。
・自分なりに工夫して取り組もうとする。

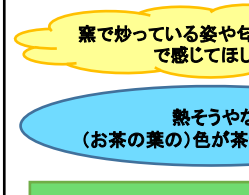
揉んだらお茶の汁が出てきた。

お茶の葉が小さくなってきた。

お茶の事やお茶の葉の変化に気付いてほしい。

地域の方にお茶の事を詳しく教えてもらい、お茶の葉を強く揉んでいくことを一緒に幼児と行いながら体験していく。

②揉んだ葉を炒る



窯で炒っている姿や匂いなどを五感で感じてほしい。

熱そうやなー。
(お茶の葉の)色が茶色になってきた。



窯で揉んだ葉を炒れるように準備してもらい、お茶作りの工程を話しながら身近に見られるようにする。

③炒った葉を揉む



おいしくなーれ！

さっきよりもパリパリしてる。

手のひらに力を入れて揉むといいよ。やってみてー。

手がお茶の色になってきた。

④揉んだ葉を炒る

※揉む、炒るを繰り返す。

⑤乾燥する

保存性を高めるために、茶生産所に行き、機械にいれて乾燥してもらおう。

⑥試飲する

地域の方に教えてもらいながらも揉み方を自分なりに工夫したり、やってよかったことを友達に知らせたりする姿が見られた。茶作りの経験を重ねるごとに自分なりのやり方を考え意欲的に取り組んでいた。また、自分で作ったお茶を試飲することで、できたという満足感を味わうことができた。

子どもの姿

保育者の願い
保育者の援助

地域の方との関わり

考察

実践事例 2 「お茶の葉で染め物」

時期：R3.5月～R3.10月

ウスベニアオイを摘みにおいてと誘ってもらったので、地域の方の畑で摘んできた。園庭の草花やウスベニアオイで色水遊びをしたり、色水で画用紙に絵を描いたりした。また、お茶摘み体験の茶葉を使い、色水遊びをし始めた。

①色水遊び



お茶の葉を揉んで色水にしてみよう。

お茶できたよー。

②紙に染めて遊ぶ



色がついたー！

これが一番色ついている。(ガーゼ素材の布)

どんな色になったのか紙や布に染めて楽しんでほしい。試せるようにいろいろな素材を準備する。

ねらい
・染め物の不思議さを感じる。
・考えたり気付いたりしたことを、試したり工夫したりして楽しみながら作る。
・自分が気付いたことや発見したことを言葉で伝えながら自信を持って取り組もうとする。

地域の方にどうすれば上手に染まるのか相談してみるように提案する。

草木染めの本を提供してもらったり、何度も研究できるようにお茶の葉を提供してもらったりしながらいろいろな方に協力してもらう。

思い切り遊び込めるように、地域の方に相談して茶葉を十分に用意できるようにする。

茶葉の提供をしてもらう。

③お茶の葉をお湯で煮る



子どもと一緒に本を見ながらレモン汁(クエン酸)を入れて実験してみる。まだ色が足りないのでタンサンを加えた。

お茶の色になってきた！

難しい！
力があるから疲れる。

④布に輪ゴムでとめ模様をつける



布を折って輪ゴムをつけたらどうか？
動物の形みたい、目と口に見える！

ここに付けたい！どんな模様になるかな？

⑤沸騰したお茶の中に布を入れる



黄色になった！
どんな模様になるかな？

できた！こんな模様になった。

⑥みょうばん液につける

⑦水洗いをして完成

完成した喜びを友達や保育者と共有してほしい。

お茶で染めたら黄色になった。
輪ゴムをつけたところは白いね。

成功体験を誰かに伝え自信をもってほしい。小学校に相談してみた。

⑧小学生とお茶染め体験(コロナ対策のためリモートで実施)



輪ゴムをつけるときは強く結ぶといいよ。強く結ばないと模様ができないよ。

思ったことや考えたことを児童に伝えられるように環境を構成した。

強く結ぶのって難しいね。
幼稚園のみんははずごいね！

小学校の教師と計画し、それぞれのねらいを実現できるように取り組んだ。また、その都度記録を残し、今後の活動へつなぐことができるようにしていきたい。

色水遊びのときは、つぶしたり、混ぜたりして色水を作っていた子どもが「揉んだら色が濃くなるよ」と経験したことを生かして遊んでいた。どのくらい濃くなったのかを紙で染めて遊んでいたことが発展して、布を染めてみようとなり染物体験へとつながった。思ったように染め物ができない中、地域の方に相談しながら、何度も試行錯誤し得たことから、保育者は反省・評価を行い計画の見直しを行った。成功したことを今度は、誰かに伝えたいという思いから、小学校の教師と計画し、自分達の経験したことなどを伝えることができた。

(まとめ)

・少人数園であるため、地域の方や小学校との繋がりは欠かせないものである。園外との関わりの中で行う保育は、子どもが受身になるのではなく、主体的に活動できるものでなくてはならないと思う。今回、地域や小学校と話し合い、理解を得たことで子どもの主体的に活動する姿に繋がったと思う。

・子どもの「こんなことがしたい！」「これは何かな？」とやってみようという疑問に思ったことを受け、環境構成や援助を行い取り組んできた。その中で、失敗することも沢山あり、失敗しても成功するにはどうすればいいのかと挑戦してほしいと願い、何度も職員間で話し合い計画の見直しをしてきた。子どもの心を揺り動かすような体験をしたことで、失敗しても「次はこうしてみよう！」と子ども自ら考えて行動する力になったと考える。

・体験を重ねるにつれ子どもの思いに地域の方が手を差し伸べてくれたことでできることが増え、子ども自身も地域の方や小学校の児童や教師に親しみを感じている。身近な人と親しみ関わりを深め、一緒に活動する楽しさを味わうことは、愛情や信頼感をもつために不可欠なものであると感じた。

・茶に関する多くの活動を経験し、自分の力にすることで、地域のつながりが子どもの心を豊かにする経験となった。また、お茶の経験を地域や小学生に伝え、認められたことで子どもの自信に繋がった。

(成果)

・地域の自然を保育に取り入れることで、たくさんの方に協力してもらい人間関係を繋げることができた。また、お茶に関する取組により、子どもの五感を刺激し感性を豊かにすることができた。地域の自然や人々との触れ合いは子どもの関心を広げ豊かな経験に繋がった。

・地域や小学校との関わりの中で、親しみや人と関わることの楽しさを感じることができた。子どもも保護者も地域を知ることによって地域を愛する気持ちを育めたと思う。

・子どもが興味・関心をもちながら活動することができ、意欲的に取り組むことができた。遊びから「こんな風にしたらどうだろう？」「こんなことをしてみたい！」など活動へと発展し、自分なりに考えたり、試したりする姿が見られた。

(課題)

・園と家庭、地域が繋がりと、幼児期の発達に必要な力の育成に努め、地域を愛する心を小学校へと繋ぎ育てていきたい。